

本学の英語教育に尽力されたトマス・ヘファナン先生

アメリカ生まれのヘファナン先生は、それほどヤンキーっぽくない先生だった。私よりもずっと前、平成6年に県短に助教授として着任されたから、在職期間は10年を越えるし、その前は鹿児島大学に2年間勤務して居られたから、鹿児島での生活の長さは12年あまり。私よりも少し短い。でも鹿児島のあちこちについて、実によく知って居られて、楽しそうなお話をうかがっていると、鹿児島の歴史や名所旧跡についての知識は私などは足もとにも及ばなかった。

ヘファナン先生は生まれはアメリカであるが、卒業された大学はイギリスのマンチェスター大学で英文学を修められ修士の称号を得られている。アメリカ詩人協会の賞を受賞され、国際英語俳句賞にいたっては何回も受賞された詩人である。マンチェスター大学、ブリストル大学、ハートフォード大学、ノースカロライナ州立大学、メリーランド大学、それに合衆国海軍洋上大学などで教鞭を執られていた。先生はただの詩人ではなく国際的な詩人である。

ヘファナン先生の英語は、ちょっと早口で、まったく英語が苦手の私には聞き取りにくかったが、いつもにこにこ笑いながら人なつこく話される態度は印象的であった。学生にも親切に接しられていたらしく、楽しそうな先生であった。また別刷りを何度も頂いた。私に取ってはちょっとよく分からない詩に関する論文であったが、退職の最後まで研究にも励まれていることがよく分かる先生だった。

ヘファナン先生は退職後もパーマネントビザが取得でき、日本在住の資格を取ることが出来た。それで現在も非常勤講師として本学の英語教育をお願いしている。ヘファナン先生のような外国人の先生はなかなか見つけることが出来ない。これからも県短の英語教育で、今までの経験を生かした楽しい英語教育をお願いできたらと思っていた。しかし残念なことに、先生はこの夏にノースカロライナに帰られて客員教授に就任されることになった。帰国されてからも作詞や学生教育を楽しまれることを期待しています。

平成17年5月

鹿児島県立短期大学学長 堀 田 満